

民営化と執行メカニズム

齋藤 雅元*

要旨

国営・公営事業を民間経営に移行させる民営化は、事業運営における費用削減効果が期待される手法である。本稿では、補助金交付メカニズムに基づいて、民営化における費用削減効果および社会厚生への影響を理論的に考察する。具体的には、政府と民間企業間のインセンティブ関係に着目した Schmidt(1996) のモデルを用い、補助金に関する執行メカニズムを導入する。それによって、政府と民間経営者との間の事前・事後の補助金交付計画におけるインセンティブの問題を考察する。特に、執行メカニズム民営化における補助金交付計画が機能する際の事前契約の特徴づけを行う。そして、事前の契約で執行メカニズムを機能させるには、事前の経営者の参加制約を緩めることが最適であることを示す。また本稿では、執行メカニズムに伴う課徴金システムとして外生的な課徴金制を採用し、各組織形態（国営，民営，執行メカニズム付き民営）の厚生比較を行う。最後に、執行メカニズムの導入が民営化に対して、厚生損失の面で有効な状況を示唆する。

*早稲田大学大学院経済学研究科 博士後期課程 連絡先 E-mail:mashaito-88@ruri.waseda.jp